

## 地域医療支援病院の承認にあたっての考え方

総合東京病院（以下、当院）は、2010年開院以来、地域の医療の中で急性期病床と回復期リハビリテーション病床を併せ持つ運営をしております。その中で脳神経外科、脊椎脊髄センター、心臓血管センター等が専門的治療を推進し、断らない救急医療を目指しその体制を構築進めて参りました。救急車の受け入れ台数はコロナ禍前で年間5,000台を超え、コロナ禍の2020年度も4,284台の受け入れ実績となっております。東京都のCCUネットワークや脳卒中センター構想にも参画しており、今後は年間8,000台以上の受け入れを目標に設定し地域の救急医療に貢献していく所存です。治療においては急性期病院として脳神経外科を中心に年間約3,000件の手術を施行しており、循環器内科領域のカテーテル治療等の専門的かつ高度な治療も積極的に対応して参りました。また、もう一つの機能である回復期リハビリテーションにおいても在宅復帰を目指した生活期医療を提供して参りました。

今後、当院は地域医療構想におけるより中心的な役割を担う病院になりたいと考えております。そのためにはかかりつけ医を担う地域の診療所・様々な役割分担のなかで地域医療を支える他病院との病診連携・病病連携を強化する情報・施設の共有、互いの医療機関による紹介・逆紹介の推進を図るためカンファレンスや研修会を大事にしながら顔の見える連携にこれまで以上に注力していく所存でございます。当院が所属する東京都の区西部医療圏（中野区・新宿区・杉並区）の人口は125万人であり、そのうち中野区は人口33万人と人口密集度合いも高く高齢化率は20%を超えて高いエリアではございますが、中野区には地域医療支援病院がない状況です。このような環境下でコロナ禍となり、当院は地域でいち早く3月よりコロナ患者の受け入れを行ってまいりました。その後、2020年7月1日に東京都より“新型コロナウイルス感染症入院重点医療機関”及び、“新型コロナ疑い救急医療機関”の認可を受けました。また、それに伴い8月1日にコロナ感染症専用病棟の開設しております。当該病棟は、元々は回復期リハビリテーション病棟ですが、個室化対応を行い8床のコロナ感染症専用のハイケアユニットとして運用を継続して参りました。2021年10月現在でコロナ感染症患者を延べ260人以上の入院を受け入れました。8月には病床稼働率は93%と高まり、都の増床要請に応じて9月7日より同感染症専用病床を10床に増床も対応しております。2021年3月には医療従事者向けワクチン接種

において“基本型接種施設”の指定を受けております。地域住民向けには当院の外来エリアすべてを使って日曜日にワクチン接種の対応をし、医療従事者を含めて約 13,000 件のワクチン接種も行いました。

また、当院は災害拠点連携病院であり、防災においてもコロナ禍前には、地域の医療機関と連携してのトリアージ訓練を当院敷地内で行ったり、区の総合防災訓練に災害拠点病院扱いで参加するなど、積極的に対応して参りました。今後、コロナ禍でなかなかできなかった地域と連携した防災への活動も活発化していく所存です。

この度、地域医療支援病院を申請するにあたり、より救急・急性期医療の拠点としての役割を果たすため、更なる医師の増員や手術室の拡張、救急外来の充実を図っていく所存です。感染対策・防災対策においても地域において中心的な役割を果たし、地域医療構想における地域包括ケアシステム全体の中でも中心的役割を果たしていく覚悟であります。

令和 3 年 10 月 22 日

医療法人財団健貢会

総合東京病院

院長 渡邊貞義